

よどまち さーち

東三国 地域

淀川区まちづくりセンターのスタッフが地域を訪問し、興味を持ったスポットや取り組みを紹介するシリーズ。第10回目は、東三国地域です。



①本物の市電??

かつて大阪市内を走っていた本物の市電が、東三国小学校に保存されています。市電が全廃された昭和44年に譲り受けました。外観は当時の姿をとどめていますが、内部は一部改修され、今では毎週火曜日の朝と昼、「でんしゃ図書館」として子ども達に利用されています。こんな楽しい場所で読書ができるなんてうらやましいですね。



②人の顔?何の建物?

カラフルな積み木を微妙にずらしながら重ねたような建物。一番上は人の顔のようにも見えます。十八条下水処理場の南側にあるこの建物は交番で、建築を学ぶ若者を対象とした公共建築設計コンクールのグランプリ作品をもとに建てられました。思わず笑みがこぼれる建物は「大阪まちなみ賞」の奨励賞にも選ばれているそうです。



③寄付カフェでひと休み!

東三国小学校の北側の細い道に入ったところにある小さな喫茶店「珈琲屋 きむら」は、店主の木村さんが地域の人の憩の場になってほしいと2年半前にオープン。ここでは自家焙煎したばかりの新鮮なコーヒーを飲むことができます。寄付カフェ協力店でもあり、ここでコーヒーを飲むと、その料金の一部が地域に還元されるそうです。コーヒーを飲んで地域貢献なんて素敵ですね。



淀川区まちづくりセンター Facebook | 淀川区まちセン FB | 検索 | 地域情報発信中!!



それいけ、まさふみ!

淀川区長 榎 正文

区民の皆さま 新年おめでとうございます!

新年と言えば「夢」、新年号の巻頭特集は新高小学校の「ドリームマップ」の授業です。

子ども達の表情をご覧ください。戸惑っている顔、真剣に考えている顔、晴れやかな顔、顔、顔、顔。民間出身の柴田校長先生の発案で始まったこの授業、夢を具体的な「目標」に、未来へ向かう具体的な「行動」を。

自分の夢といいますが、私が小学生の時は、そんなことを考える余裕がなく、日々目の前のことに必死で生きていた気がします。中学生になり生活環境も改善され、部活に打ち込んだりして、少しずつ自分に自信が持てるようになり、自分の居場所を見つけていった、そんな記憶が残っています。

職業観教育といいますが、将来社会の一員として自分が働いているイメージを持つことができないでいる子ども達が

います。残念ですが、全国平均に比べ自尊感情が低いのも、大阪市の児童生徒の特徴です。

大阪市では、家庭の経済格差を教育の格差にしてはならず、困難を乗り越え自らの力で未来を切り開くことができるよう、子ども達やご家庭を支援する施策を展開しています。未来の社会のため、子どもの「夢」を大事にして、実現させてやりたい。こども食堂、安心できる居場所づくりや学習支援等々。引き続き区民の皆さまのご支援、ご協力をお願いいたします。



ヨドネル大規模調査結果報告会にて。

